

事例研究報告

特別支援学校小学部児童に対する
伝える力を育む指導
～カードで誰にでも伝わるように～

児童の実態

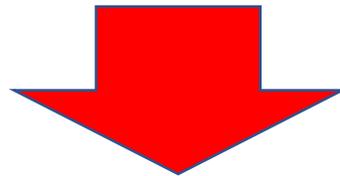
- 小学部児童
- 脳性まひ，口蓋裂
- 「絵・文字カード」を用いて1日のスケジュールを把握できる。
- トイレは定時排尿である。
- 発語はないが，発声や指さし等で意思を伝えようとする。
- 音韻意識はあり，音節に分解することができる。

保護者の願い

- 外出先で「トイレに行きたい」と伝えてほしい。

教員の願い

- 伝えようとする意欲を大事にしたい。
- 誰にでも伝わる手段を身につけてほしい。



【目標】 遊びたい玩具のカードを選択し、
教員に伝えることができる。

アドバイザーからの助言

①カードの使用は課題学習場面のみで、課題学習でも試行回数が少ない。

練習回数を増やす。
絵カードは言語であり、いつでも活用できるようにする。

②教員からのプロンプトのタイミングが早いいため、自発的な行動を引き出せない。

自分でカードを選ぶ行動ができるまで待つようにする。

③点数をつけると、1日の試行回数にばらつきがあるため、記録として適さない。

条件を整えて記録をつけるようにする。

助言を受けての見直し

①カードの使用機会

- ・ 課題学習場面では、1日5試行以上行う。
- ・ 訓練用と常設用を準備し、カードの使用機会を増やす。

②プロンプトを出すタイミング

カードを選択する際、自発的な行動を待つ。

③記録の方法

1回の試行につきプロンプトの有無を記録し、1日の全試行中でプロンプトなしの割合を出してグラフ化する。

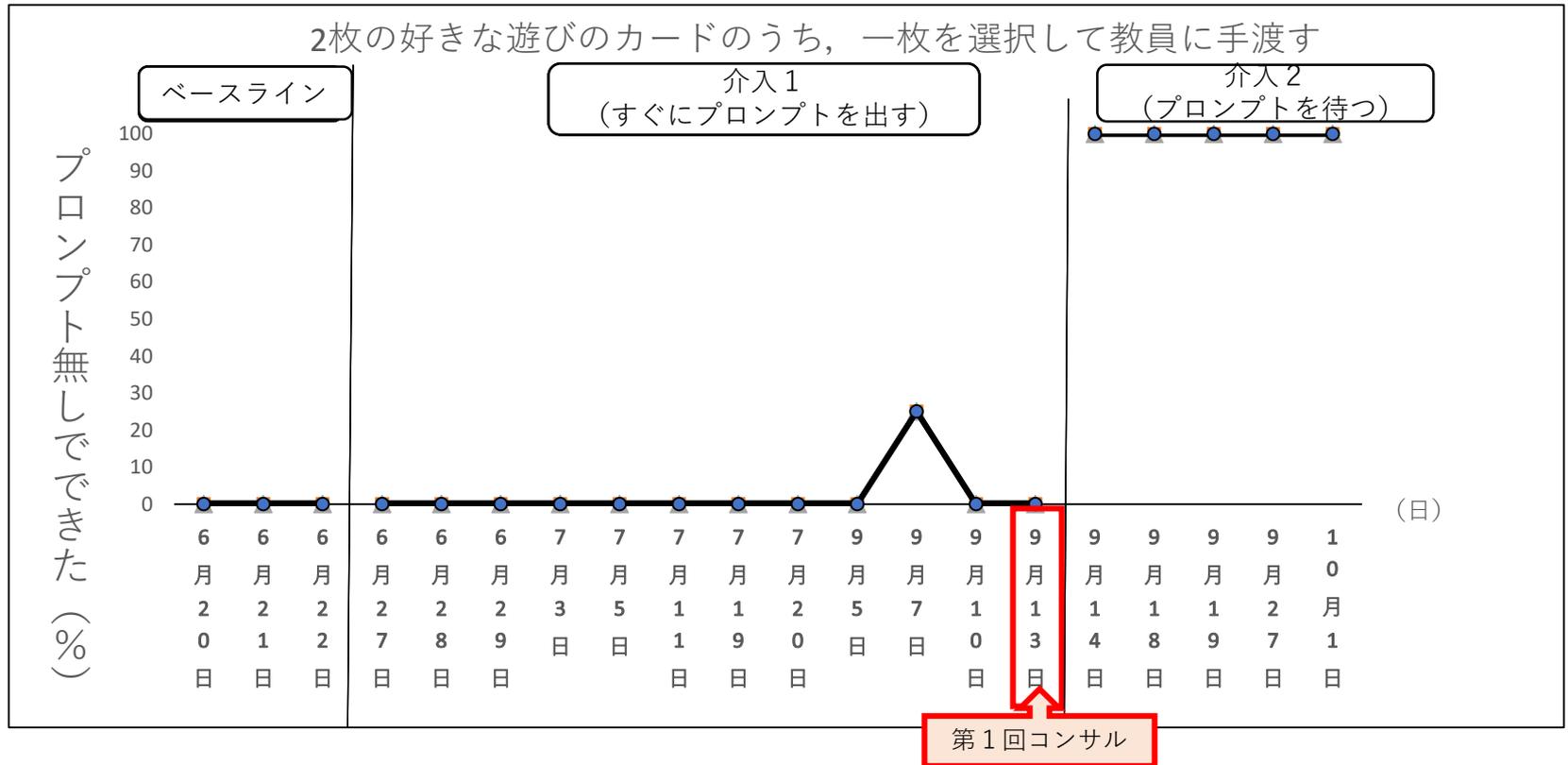
指導 1 「2枚の好きな遊びのカードのうち1枚を選択して教員に渡す。」

【指導の手続き】

- ①個別の課題学習時に行う。
- ②教員は、2枚の遊びのカードが貼られたボードを机上に提示し、「どっちで遊ぶ？」と尋ねる。
- ③教員は右手を出し、必要があれば左手でプロンプトを出す。
- ④児童がカードをボードから取り、教員に渡してきたら「〇〇がほしいんだね。」と言葉をかけながら、カードに示されている玩具を渡す。
- ⑤タイマーで2分間経過したことを知らせ、再度①からの手続きで指導を繰り返す。1日5試行以上行う。
- ⑥「100%できた」が5日間連続で目標達成とする。

指導 1 記録と成果

- 記録：1回の試行につきプロンプトの有無を記録し，1日の全試行の中でプロンプトがなかった割合(%)を出す。



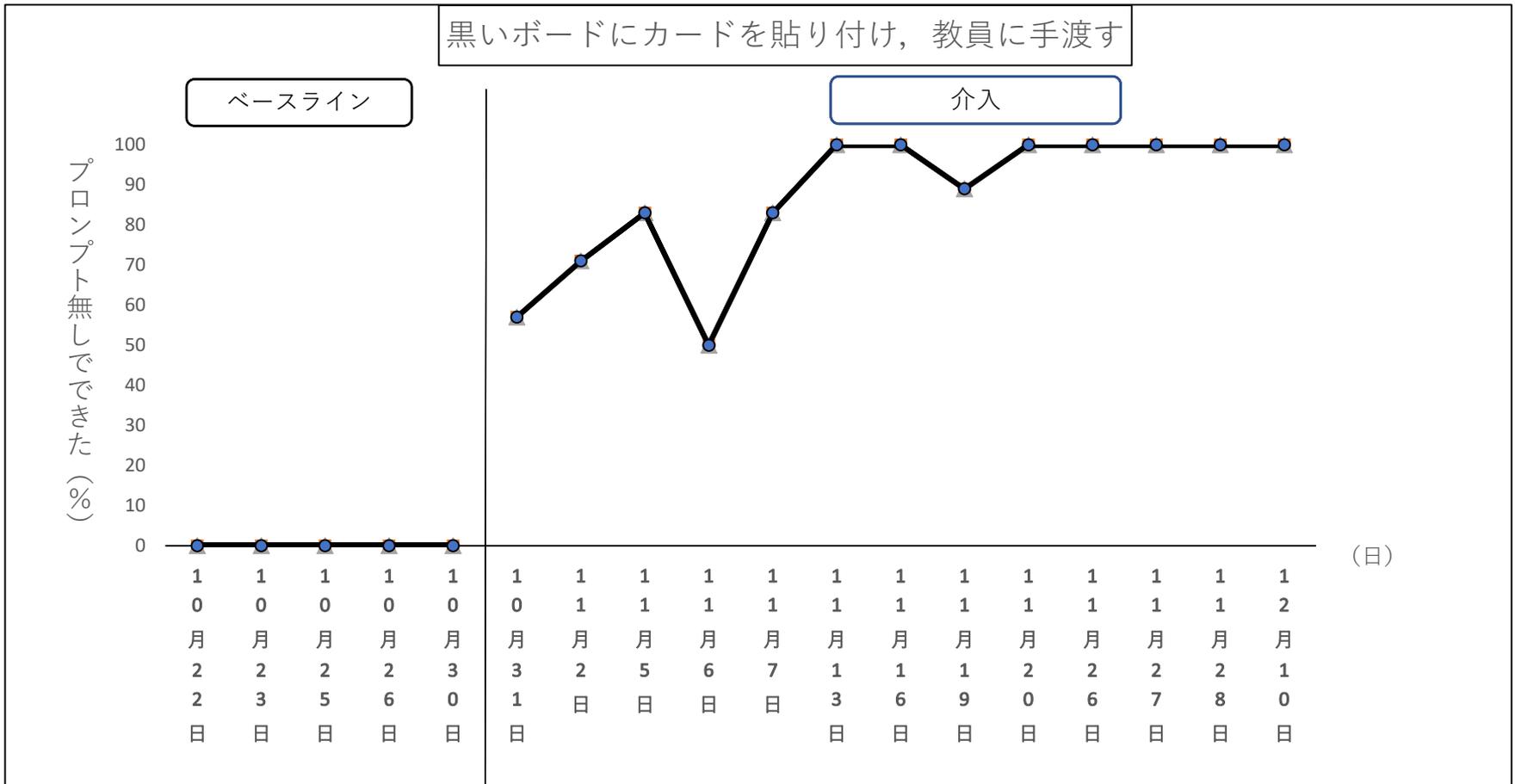
成果：提示された2枚の遊びのカードから1枚を選択して教員に渡すことができるようになった。

指導 2 「黒のボードにカードを貼り付け、 教員に渡す」

- ①教員は、積み木のカードが貼られたボードを机上に提示し、右手を出す。
- ②教員は必要があれば左手でプロンプトを出す。
- ③児童がカードをボードから取り、黒色のボードにカードを貼って教員の右手に渡してきたら「〇〇がほしいんだね」と言葉をかけながら、積み木を渡す。
- ④タイマーで2分間経過したことを知らせ、再度①からの手続きで指導を繰り返す。1日5試行以上行う。
- ⑤100%が5日間連続で目標達成とする。

指導 2 記録と成果

- 記録の方法は指導 1 と同じ



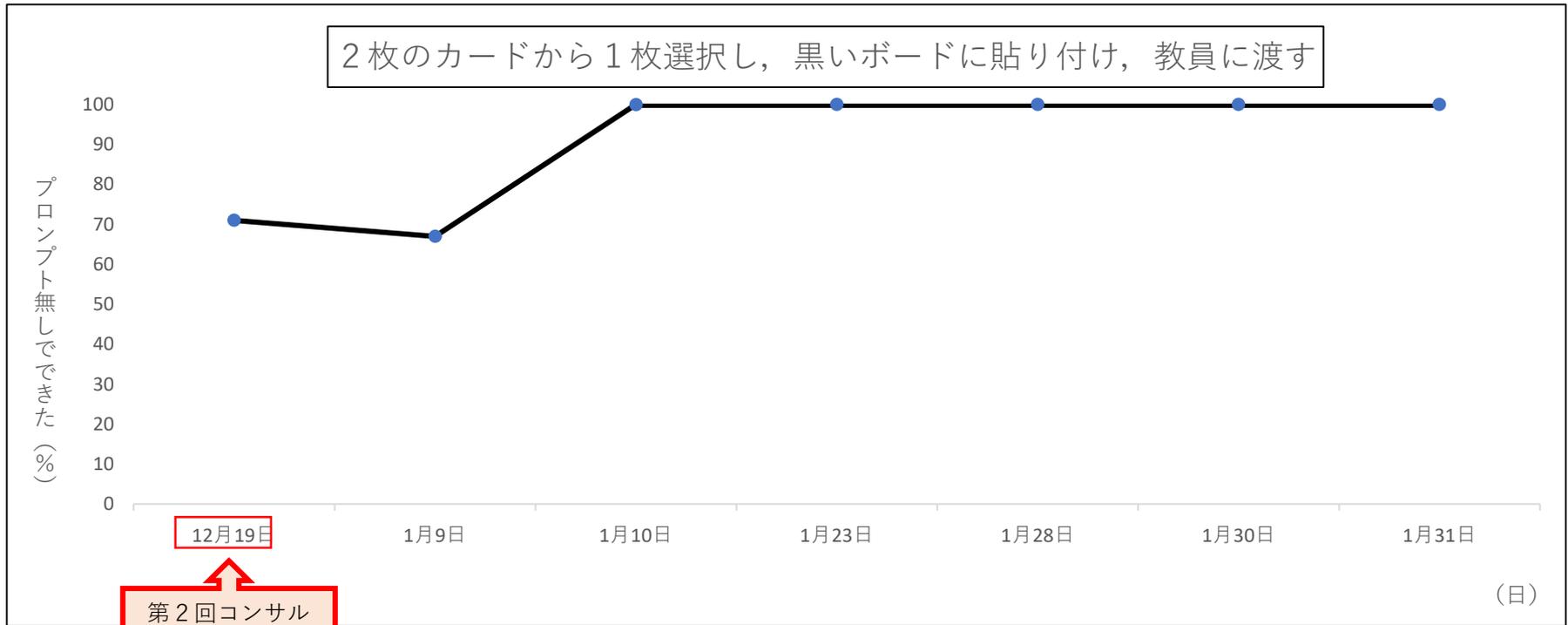
成果：カードを黒のボードに貼り付けて要求する行動が定着した。

指導 3 「2枚のカードから1枚選択し、
黒のボードにカードを貼り付け、
教員に渡す」

- ①教員は、積み木のカードと空白カード（無地）が貼られたボードを机上に提示し、右手を出す。
- ②教員は必要があれば左手でプロンプトを出す。
- ③児童が積み木のカードをボードから取り、それを黒色のボードに貼って教員に渡してきたら「〇〇がほしいんだね」と言葉をかけながら、積み木を渡す。
- ④タイマーで2分間経過したことを知らせ、再度①からの手続きで指導を繰り返す。1日5試行以上行う。
- ⑤100%が5日間連続で目標達成とする。

指導 3 記録と成果

- 記録の方法は指導 1, 2 と同じ



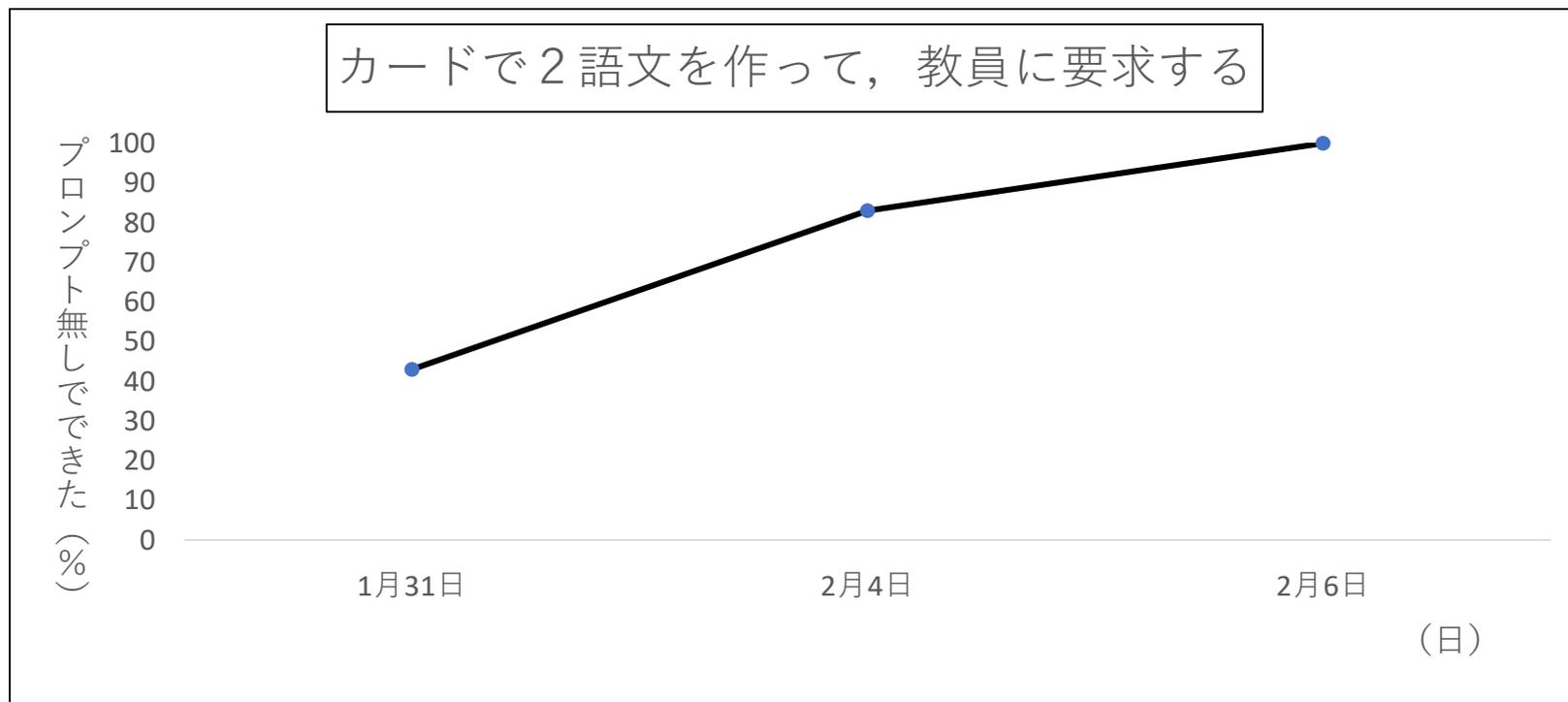
成果：選択肢が増えても、選んだカードを黒のボードに貼り付けて要求する行動が定着した。

指導 4 「2語文を作って，教員に要求する」

- ①教員は，積み木のカードと「ください」のカードが貼られたボードを机上に提示し，右手を出す。
- ②教員は必要があればプロンプトを出す。
- ③児童が積み木のカードを黒色のボードに貼り，次に「ください」のカードを積み木のカードの右隣に貼って，教員の手に渡してきたら「〇〇がほしいんだね。」と言葉をかけながら，積み木を渡す。
- ④タイマーで2分間経過したことを知らせ，再度①からの手続きで指導を繰り返す。1日5試行以上行う。
- ⑤100%が5日間連続で目標達成とする。

指導 4 の記録と成果

- 記録の方法は指導 1, 2, 3 と同じ



成果：カードを使って2語文を作ることが定着しつつある。

指導全体を通じての成果

- ① 担任だけでなく，他の教員にもカードを使って要求する行動が定着した。
- ② 2語文を作り，「ください」や「行きたい」という要求ができるようになってきており，児童の伝えたい内容がどの教員にもわかりやすくなってきた。
- ③ 2月6日には，トイレに行きたいと感じた（スケジュールにトイレが示されていない）タイミングで，「トイレ」「いきたい」とカードを使って伝えることができた。

ここが成功のポイント

- 教員の手の上にカードを貼ったボードを渡してくるまで教員は手を動かさない。
 - 教員が受け取るタイミングに迷いがなくなり、教員の手の動きに左右されることなく児童が確実に教員の手の上にボードを置いて要求するという行動が定着した。
- 課題学習場面だけでなく、他の学習場面や日常生活場面でもカードを使って伝える。
 - 課題学習内の試行回数を増やすだけでなく、休み時間や自立活動、校外学習の際にもカードを使うことで日常的にカードで要求する行動が定着した。